

▼球場のアナウンス室で



「いつも声の仕事をしていて、顔を撮られるのは慣れていないので恥ずかしいですね」そう言いながら、カメラに向かって素敵な笑顔を見せてくれたのは篠崎亜希さん。
カープタウンともいわれる由宇町で生まれ育った篠崎さんが野球に興味を持つのは自然なことだったようです。昔から、よく父親と弟に交じって

「いつも声の仕事をしていて、顔を撮られるのは慣れていないので恥ずかしいですね」そう言いながら、カメラに向かって素敵な笑顔を見せてくれたのは篠崎亜希さん。
カープタウンともいわれる由宇町で生まれ育った篠崎さんが野球に興味を持つのは自然なことだったようです。昔から、よく父親と弟に交じって

野球をして遊んでいたといいます。「仲間に入りたかったんです。私も野球がしなかった。高校時代にはいちかばちか、坊主になるので野球部に入れてくださいとお願ひしたんですよ。もちろん、断られてしまいましたけど」と笑いながら篠崎さんは話します。
それでも野球に関わりたいたい。テレビでプロ野球を観ているときには無意識に、女性でも野球に携われる仕事を探していたとい

ります。そこで耳にしたグラウンドに流れる女性の声。「うぐいす嬢」と呼ばれる場内アナウンスの仕事に惹かれ始めました。
野球部への入部をあきらめた高校時代は、放送部へ入部し、高校野球の公式戦などでアナウンスをしてきました。その魅力にすっかり取りつかれた篠崎さんは、卒業後、知人から「由宇の球場でアナウンスをしないか」という話があった時も快諾します。大学在学中も、社会人になっても仕事の傍ら、広島東洋カープ由宇練習場でうぐいす嬢を務め続け、キャリアは約20年になりました。
場内アナウンスはいつでも生放送の一発勝負。選手の交代や守備位置の変更など、臨機応変に対応する必要があります。何百試合もアナウンスをしてきた篠崎さんですが、完璧な放送ができたと自分で納得できる試合は、年間1試合程度といえます。「それがここまで続けてこられた理由でもあると思います。次はもっとうまくやってみよう」と、いつでも挑戦している気持ちです。あとは、やっぱり野球が好きだからかな」今後も篠崎さんの美しいアナウンスが、由宇の球場に響き続けることでしょう。



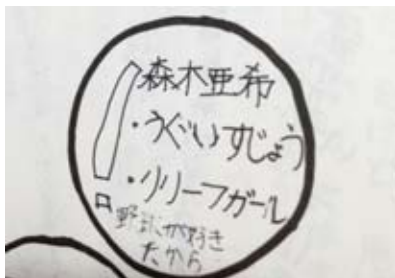
私のカタチで

野球に関わる

Vol.78

篠崎 亜希さん
(由宇町在住)

学生時代から野球の場内アナウンスに携わり、長きにわたって広島東洋カープ由宇練習場でうぐいす嬢として活動している。



▲小学校の卒業文集で誓った将来の夢を実現



▲球場のアナウンス室から約20年間ずっと見続けているグラウンド